

22.1.12

核兵器禁止条約を力に

三浦市民思い新たに

神奈川

神奈川県三浦市（合併前は三崎町）にある三崎港は、米国が太平洋核実験場（マーシャル諸島ビキニ環礁）で1954年に強行した核実験によって被災した150隻以上のマグロ漁船の母港であった。あれから68年。発効した核兵器禁止条約を力に、ヒロシマ、ナガサキに続くビキニ被ばく事件の真実を語り継ぐと草の根活動をする市民たちの思いは。

（阿部活士）



当時もいまも、「みさきのマグロ」が有名な三浦市。市民による核兵器廃絶平和都市宣言を求める署名運動の成果として、市は91年3月に、あらゆる国の核兵器の廃絶と軍縮を願う「三浦市核兵器廃絶平和都市宣言」をしました。宣言には、「我々は、世界最初の核被爆国民として、また、

1954年にアメリカのビキニ環礁での水爆実験により大きな被害を受けた経験を持つ



放射能検査されるビキニ被災船のひとつ第十光栄丸（撮影日時不明、小林直樹さん提供）

ビキニ被ばくの真実語り継ぐ

三浦市民」と書いています。その時、三浦地区労務局長として署名運動をリードしたのが日本共産党市議の小林直樹さんです。小林さんは書棚にあるビキニに関するファイルから、2枚の写真を取り出しました。

一枚は、神奈川原水協ビキニ調査団の一員としてマーシャル諸島共和国を94年に訪問した時のもの。

もう一枚は、ビキニ被ばく漁船の第十三光栄丸の写真です。白い検査服を着た人や報道陣らしい人も写っています。撮影日時は不明ですが、三崎港に54年3月16日帰港した後、撮られたものです。

事件の真実は…

「ビキニ事件は3月1日だけじゃない。被爆船も第五福竜丸だけじゃないというのが真実でしょう」と強調します。

ビキニ事件が明るみになったのは、アメリカが54年3月

1日ビキニ環礁で強行した核実験によってマグロ漁船・第五福竜丸にも放射能に汚染された「死の灰」が降り注ぎ、漁船員23人全員が被ばくしたからです。

水産庁は同月18日に、三崎港、塩釜（宮城）、築地（東京）、焼津と清水（静岡）の5港を「遠洋漁業揚げ港」に指定し、放射能検知を行うことを関係知事に通達しました。

身体からも探知

指定港の三崎港に次々と入港したマグロ漁船を検査すると、マグロなどの漁獲物のほかに、漁船員の身体からも放射能が探知されました。なかでも、第十三光栄丸の被ばくはマグロの街に不安と衝撃を与えました。

当時政府が第五福竜丸以外にも被災船があったことを知っていた証拠といえる公文書

・「第五福竜丸事件善後措置に関する打合せ」の第四回会合記録（4月5日）に「三崎に入港した第十三光栄丸の船員中に白血球数が四千程度のもので三人あり」との記述があります。国立久里浜病院で診察をうけた第十三光栄丸漁船員は「放射能患者」とした別の公文書もあります。

| 氏名 | 年齢 | 性別 | 乗組員番号 | 検査日時 | 検査結果 | 備考 |
|------|-----|-----|-------|----------|------|-----|
| 小林直樹 | 38 | 男 | 1 | 54年3月16日 | 正常 | |
| ... | ... | ... | ... | ... | ... | ... |

第十三光栄丸乗組員の「放射能患者調査書」（開示する際氏名は黒塗り）